

令和5年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

令和6年3月22日（金）午後2時から午後3時30分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム1

3 出席者

(1) 出席者 10名

小田直樹、永坂幸子、渡邊寛人、清澤和音、鈴木たか子、三浦志朗、對馬幸司、鈴木政枝（代理出席）、石橋渉、瀬戸田悦子

(2) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(3) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 深津広明、高齢介護課長（代理）長澤貴行、福祉課長 山本貴史、福祉課社会福祉係長 山本昌弘、社会福祉係主事 畠山和也、齊木鉄馬

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 大野孝男、地域福祉係主査 古川裕隆、小島誠司、管理課児童係主任児童専門員 杉浦かおり

4 傍聴者

0人

5 議事

(1) 議題

ア へきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) へきなん地域福祉ハッピープランの概要

(イ) 市民の意識調査結果

(ウ) 行政の取り組み

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

イ 各地区の地域福祉活動の取り組みについて

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

ア ヘきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) ヘきなん地域福祉ハッピープランの概要 及び (イ) 市民の意識調査結果
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

なし

(ウ) 行政の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：ボランティア団体の活動については、コロナ禍以前の活動状況との比較を行いたい。次回の資料ではコロナ禍以前のデータを出してほしい。

【事務局】：次回の資料ではデータを出したい。

【委員】：互助という言葉はどのような意味か。

【事務局】：隣近所の関係の近い人と自発的に支えあう関係、制度化されていない関係性を指している。

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：一人暮らしになったときに、隣近所の関係が大切であると感じている。

【委員】：世代が変わったときの隣近所のかかわり方が難しい。

【委員】：若い人が何にも所属していないかということそうではない。新たなつながりで緩やかにつながっている。

イ 各地区の地域福祉活動の取り組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：各地区の活動は地区をまたいで横の広がりがあるか。

【事務局】：各地区の取り組みをシンポジウムで共有し、横につながっていくとよいと考えている。

(3) その他

特になし。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括

～ 総括 ～

地域福祉は先の長く、見えにくいものである。じわじわと効いてくる漢方薬だと説明している。

活動のスタートの時と比較するとじわじわと各地域で活動が進んできている。例えば、新川のおかえり運動もいろんな人にとって、地域をホームにしていこうとする取り組みである。立っている人が体調不良で数日以内と子供たちが騒ぎ出す。地域のつながりはこのように作っていくものであろう。本日、発言があったような、横の展開はとても大事である。横の展開により、地域福祉に広がり生まれていく。

地縁にも限界がありそうだ。昔はよかったでは生み出せない新しい方法を考える必要がある。

活動を通して、日頃交わる機会のない関係が交わる。一緒にご飯を食べ、ゲームをする体験からしか地域福祉は生み出せない。共生のなかで芽生える芽をキャッチしてほしい。